



週間情報



No.0145

発行日 令和元年12月3日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 令和元年度全国消防長会役員会の審議結果に基づく「消防関係予算の所要額確保に関する要望」を実施

全国消防長会

令和元年11月21日(木)、石川県金沢市において開催されました役員会の審議結果に基づき、「消防関係予算の所要額確保に関する要望」を11月25日(月)、総務省において安藤会長及び長岡財政委員会委員長(神戸市消防局長)が高市総務大臣等に行いました。

実施当日は、長谷川総務副大臣、林崎消防庁長官等に直接お会いし要望書を手渡しました。要望書の内容は、次のとおりです。

【消防関係予算の所要額確保に関する要望】

近年、頻繁に大規模な風水害が発生しており、特に本年9月、10月には台風が相次いで日本列島を直撃し、記録的な暴風雨によって各地で建物の倒壊、大規模な停電、河川の決壊・氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、多くの尊い命が失われるなど大きな被害が発生した。

また、7月には京都市伏見区において、放火とみられる火災により、多くの尊い命が奪われる事件も発生している。

さらに、南海トラフ地震や首都直下地震をはじめとする巨大地震への防災・減災対策が急務であるとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における応援体制の構築、テロ災害等への備えも必要となっており、国民の安全安心を守る消防機関に寄せられる期待はますます大きくなっている。

このような中、国においては、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化はもとより、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の充実強化など、国民の期待に的確に対応できるよう防災・減災対策に全力で取り組んでいるところである。

しかし、地方財政は、人口減少・少子超高齢社会による社会保障費の増大など様々な課題を抱え、求められる財政需要は増加の一途をたどっており、引き続き厳しい状況であると言わざるを得ない。

については、消防力の基礎となる消防職員や消防車両を確保し、消防庁舎や消防水利等のインフラ整備を推進することはもとより、大規模災害やテロ災害等に的確に対応できるよう、特に次の事項について、強く要望する。

1 予算概算要求額の満額確保について

(1) 大規模災害に備えた緊急消防援助隊等の充実強化

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、緊急消防援助隊の大規模かつ迅速な部隊投入を可能とする体制を整備するための緊急消防援助隊設備整備費補助金及び緊急消防援助隊の災害対応能力や後方支援体制を充実強化するための無償使用制度等に係る概算要求額59.0億円を満額確保すること。

(2) 様々な災害に対応するための常備消防力等の充実強化

消防防災施設の整備に係る消防防災施設整備費補助金、消防の広域化や消防業務の一部の連携・協力など地域の実情に応じた柔軟な対応を推進するための事業及び地方公共団体等の災害対応能力の強化等に係る概算要求額19.1億円を満額確保すること。

(3) 地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の充実強化

消防団への加入を促進するための事業や災害対応能力の向上を図るための救助資機材等の

技術講習等の実施、自主防災組織等の活性化への支援等に係る概算要求額7.9億円を満額確保すること。

(4) 防災情報の伝達体制の充実強化

災害時の情報伝達体制の充実強化及びJアラートの運用・保守・更改の機能強化等に係る概算要求額21.8億円を満額確保すること。

(5) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた安心・安全対策の推進

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催における消防・救急体制の整備に必要な応援体制の構築及びNBCテロ等に対応するための資機材等の整備に係る概算要求額8.6億円を満額確保すること。

(6) 被災地における消防防災体制の充実強化

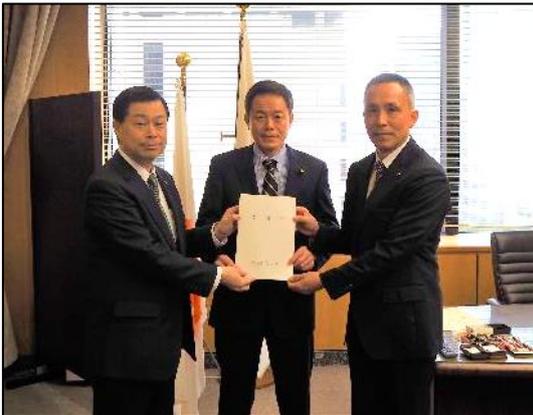
東日本大震災により被害を受けた、消防防災施設・設備の早期復旧に必要な消防防災施設災害復旧費補助金等や原子力災害避難指示区域における大規模林野火災等に対する消防活動等の支援に係る概算要求額7.9億円(復興特別会計)を満額確保すること。

(7) その他の消防活動に必要な経費について

上記(1)～(6)のみならず、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進並びに消防防災分野における消防用機器等の海外展開の推進及び科学技術の活用に係る費用等、消防庁の概算要求額を満額確保すること。

2 地方交付税の所要額の確保について

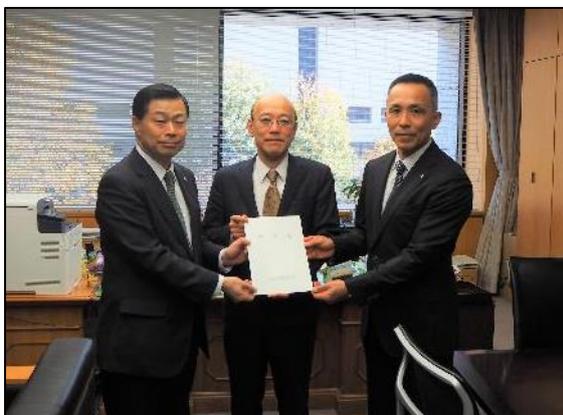
消防機関が、消防活動を行う上で必要な財源となる地方交付税の所要額を確保すること。また、大規模災害等に備えるために必要な施設整備に支障が生じないように、緊急防災・減災事業債、防災対策事業債及び施設整備事業債(一般財源化分)の元利償還金に対する交付税措置を継続すること。



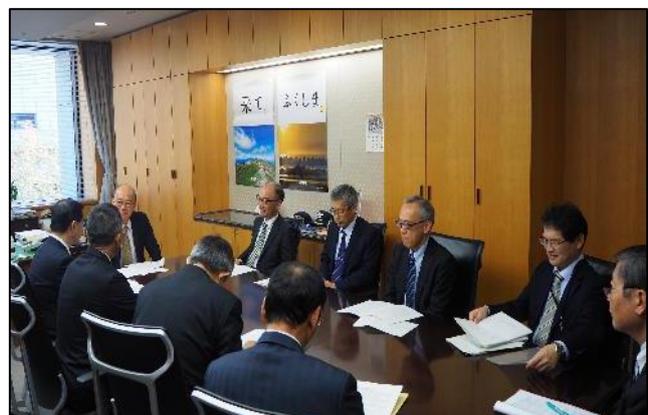
【長谷川総務副大臣への要望の様子】



【長谷川総務副大臣との意見交換の様子】



【林崎消防庁長官への要望の様子】



【林崎消防庁長官等との意見交換の様子】

◆ 令和元年度全国消防長会救急委員会秋季常任委員会を開催

全国消防長会救急委員会

全国消防長会救急委員会では、令和元年11月19日（火）、北海道札幌市（ホテルライフォート札幌）において、令和元年度秋季常任委員会を開催しました。

会議における議案審議等の項目は、次のとおりです。

【審議事項】

- 1 令和2年度全国消防長会救急委員会秋季常任委員会の開催地について
- 2 令和2年度救急車適正利用PRポスターについて

【情報交換】

- 1 夏期における救急隊員の労働負荷軽減対策について
- 2 救急救命士の資格を有する者の再任用・運用状況について

【情報提供】

- 1 沖縄県消防指令センターと離島の救急事情について
- 2 心肺蘇生を望まない傷病者への対応について
- 3 京都アニメーション火災の対応について
- 4 「第28回全国救急隊員シンポジウム」の開催について



【救急委員会の様子】

◆ 女性消防職員から県消防長会長へ提言を実施

愛媛県消防長会

愛媛県消防長会では、令和元年11月15日（金）、愛媛県内の女性消防職員等が主体となって実施した愛媛県消防長会女性消防職員活躍推進事業の結果を踏まえ、女性消防職員が、労働環境の整備や体制構築等、現在の課題や今後の取り組みについて県消防長会長へ提言書を渡しました。

これは、愛媛県消防長会秋季総会の中で県内の女性職員の総意として提言されたもので、女性用スペースの確保や個人装備の再確認、業務上の適正な配置や女性活躍推進事業の継続が示されています。県内全消防長の共通認識として、働きやすい環境整備を目指し、女性活躍推進事業は、全職員が一丸となって推進していくものと認められました。

今後は、性別や階級に関係なく職員全員が働きやすく、長く勤めたいと思える職場環境を整備してまいります。



【県消防長会長への提言の様子】



【女性消防職員活躍推進事業報告の様子】

◆ 令和元年度全国消防長会東近畿支部府県講習会を開催

滋賀県消防長会

滋賀県消防長会では、令和元年11月18日（月）、滋賀県危機管理センターにおいて、令和元年度全国消防長会東近畿支部府県講習会を開催し、87名が参加しました。

この講習会は、人材育成を目的として慶應義塾大学理工学部管理工学科准教授の中西美和氏を講師に迎え、「レジリエントな人材を育成するためのKnow-Why教育」というテーマでご講義いただきました。

当講習会では、「マニュアル人間」ではなく、「状況変化に柔軟に対応して機能を維持し続ける能力を持った職員」を育成する重要性を学び、参加者にとって非常に有意義な講習会となりました。



【講習会の様子】

◆ 令和元年度中部消防長会予防事務担当者会議「違反是正に係る研修会」を開催

中部消防長会

中部消防長会では、令和元年11月19日（火）、沖縄県の浦添市消防本部において、一般財団法人日本消防設備安全センターから違反是正支援センター次長の岡田康裕氏及び調査役の根廻智哉氏の2名を講師に招き、査察及び違反処理業務の的確な遂行を図ることを目的として、違反是正実務研修会を開催しました。

当日は、中部地区6消防本部の予防事務担当者及び消防署員51名の参加があり、効果的査察や違反是正の本質等についてご講義していただきました。

両氏のご講義により、今後の違反是正及び公表制度に向けた査察強化に活かせる大変有意義な研修となりました。



【研修の様子】

◆ 「消防職員のハラスメント防止対策研修会」を開催

静岡県東部消防長会

静岡県東部消防長会では、令和元年11月22日（金）、一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事のサニー・カミヤ氏を講師として招き、「消防職員のハラスメント防止対策」について、ワークショップ形式による研修を開催しました。

当研修会は、ハラスメント防止対策について改めて見直す機会として、静岡県東部消防長会を構成する7つの消防本部の職員を対象に実施しました。

また、近年増加する消防職員による各種ハラスメントの現状や発生原因等を学び、参加者全員がハラスメント防止対策について深く学ぶことができました。

職員個人としてだけでなく組織としての課題等を知ることができ、大変有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

◆ 全国消防長会消防長研修会（北海道支部）を開催

全国消防長会北海道支部

全国消防長会北海道支部では、令和元年11月27日（水）、札幌市（ロイトン札幌）において、全道の消防長を対象とした、令和元年度消防長研修会を開催しました。

研修会では、道内58消防本部から54名の消防長（代理を含む。）が参加し、下記の内容について講師からご講義をいただくとともに、全国消防長会事務局から本会各種事業等について報告及び説明がなされました。

【講義内容】

- 「消防行政の現状と課題について」
総務省消防庁
消防・救急課長 川島 司 氏
- 『「変革できる組織」へ ～大学改革を例に～』
学校法人北海道科学大学
理事長 苔米地 司 氏



【研修会の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 消防署体験学習を実施

衣浦東部広域連合消防局（愛知）

衣浦東部広域連合消防局では、令和元年11月16日（土）、衣浦東部広域連合高浜消防署において、高浜市民向けに消防署体験学習を実施しました。

この催しは、消防の仕事に対する理解を深めていただくことを目的として、平成30年度から実施しています。

参加者には、庁舎や車両の見学の後、消防車からの放水体験、濃煙テント内にいる要救助者の救出を体験し、最後は消防隊による本番さながらの火災活動の実演を見学していただきました。

今後も、同様のイベントを通じて、地域住民の防火・防災に対する意識の高揚を図ってまいります。



【放水体験の様子】



【火災活動実演の様子】

◆ 未来の女性消防官職業体験会を開催

尾三消防本部（愛知）

尾三消防本部では、令和元年11月16日（土）、未来の女性消防官職業体験会を開催しました。

この職業体験会は、消防で働くことに興味のある女性を対象に、消防の業務を知ってもらうことを目的として、毎年開催しています。

今回は6名の参加者があり、チロリアン渡過、はしご車のバスケット搭乗、空気呼吸器を装着して煙の中へ進入する活動などを体験していただきました。

尾三消防本部では、13名の女性消防官が働いています。当日は5名の女性職員が体験案内をしました。参加者は、「女性消防官の皆さんがたくましく、かっこよかった」と消防官への憧れが増したようです。また、「消防の訓練は大変でしたが、職場の雰囲気が良く、消防士になりたい気持ちの方がより強くなった」、「女性消防官がとても格好よかった」等の感想をいただきました。

女性のさらなる活躍のため、今回の体験が参加された皆さんの就職先選考の一助になれば幸いです。



【体験会の様子】

◆ 「もりもり2万人まつり&農協祭」において火災予防をPR

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部袋井消防署森分署では、令和元年11月17日（日）、令和元年度秋季全国火災予防運動の実施に合わせ、「もりもり2万人まつり&農協祭」において火災予防をPRしました。

当日は、晴天にも恵まれ多くの来場者があり、住宅用火災警報器の設置と適正な維持管理について説明し、消防車・救急車の展示や防火衣の試着体験を実施しました。訪れた来場者には、住宅用火災警報器の電池交換のタイミングなど興味を持って聞いていただき、大盛況となりました。

今後も、消防への理解を深めていただけるよう火災予防の啓発を続けていきます。



【消防に興味を持つよう啓発グッズ配布の様子】



【住宅用火災警報器の説明の様子】

◆ 庁舎を利用した消防広報イベント「消防の広場」を開催

筑紫野太宰府消防組合消防本部（福岡）

筑紫野太宰府消防組合消防本部筑紫野消防署では、令和元年11月17日（日）、庁舎を利用した消防広報イベント「消防の広場」を開催しました。イベントでは、消防車両、燃焼実験、住宅防災品展示などの各種展示コーナーや、消火器、避難器具、119番通報、はしご車搭乗などの各種体験コーナーを企画、当日は多くの来場をいただきました。

来場者はスタンプラリーで各コーナーを回る形式として、複数の体験を促しました。また、ゴール地点を住宅防火相談コーナーとすることにより、住宅用火災警報器の維持管理を中心とした広報を実施することができ、市民との有意義な交流の場となりました。



【イベントの様子】

訓練・演習

◆ 化学物質漏洩警戒想定（C災害）訓練を実施

西春日井広域事務組合消防本部（愛知）

西春日井広域事務組合消防本部では、令和元年11月19日（火）、東消防署において化学物質漏洩警戒想定（C災害）訓練を実施しました。

当管内の工場から化学物質が漏洩し、逃げ遅れ者が発生したとの想定で行われ、東消防署職員20名が参加しました。

指揮隊は、情報収集及び活動統制を実施し、消防隊はレベルBを着装、現場周辺の環境測定並びに進入統制ラインの設定を直ちに行いました。救助隊はレベルAを着装、屋内進入により要救助者の救出にあたり、同時進行で装備除染ゾーンを設営して要救助者及び救助隊員の除染活動を行いました。

この訓練は、消防隊及び救助隊のC災害対応活動の知識、技術を向上することで災害の拡大をおさえ、要救助者の救出を安全かつ迅速に遂行するための隊員育成という目標で実施されました。

訓練終了後の検討会では忌憚ない意見が交わされ、C災害という特殊災害について、全体の流れをより一層理解することができました。



【進入統制ラインの設定】



【関係者からの事情聴取】

◆ 救急救助技術研修会を開催

今治市消防本部（愛媛）

今治市消防本部北消防署では、令和元年11月13日（水）、11月18日（月）及び11月20日（水）の3日間、当消防署の敷地において、交通事故現場（多数傷病者発生）を想定した救急救助技術研修会を開催しました。

訓練は、西瀬戸自動車道（しまなみ海道）において、多重衝突事故により多数の傷病者が発生しているという想定で行われ、実戦さながらに傷病者のトリアージ、応急救護所の設置、交通救助、消防活動等が実施されました。

訓練にあたっては、愛媛県自動車車体整備組合今治越智郡支部の協力のもと、廃車の提供を受けたことで、より交通事故現場に即した実車訓練が可能となり、所期の目的であった救急救助技術・知識の向上及び隊員間の連携強化を図ることが出来、充実した訓練となりました。



【訓練の様子】

研修等

◆ 原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会事務担当者会議を開催

原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会事務局 石巻地区広域行政事務組合消防本部（宮城）

原子力発電所等が所在する全国15消防本部（会員）で組織する原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会では、令和元年11月14日（木）、東京都港区（第二興業ビル会議室）において、総務省消防庁特殊災害室の三浦室長をはじめ多くの来賓を迎え、事務担当者会議を開催し、原子力防災にかかる情報交換等を実施しました。

また、翌15日（金）には視察研修として、神奈川県横須賀市にある一般財団法人電力中央研究所において、実験施設の見学等を実施しました。

各会員本部が原子力防災対策を考える上で、大変有意義なものとなりました。



【会議の様子】



【視察研修の様子】

◆ 救急発表会を開催

四日市市消防本部（三重）

四日市市消防本部では、令和元年11月18日（月）、救急隊員の知識・技術の向上、プロトコルに基づいた救急活動の再確認を行うことを目的として救急発表会を開催しました。

四日市地域メディカルコントロール協議会の四日市市消防本部から3隊、菰野町消防本部から1隊が参加し、計4隊の救急隊が発表を行いました。また、発表の症例はブラインド形式で実施し、各症例はプロトコルが複合するようなシナリオを設定することで、隊員の観察能力向上も目的の一つとしました。

指導救命士が症例進行を担当し、発表後は地域メディカルコントロール担当医師による検証を実施しました。

今後も、医師と連携し隊員の知識、技術の向上を図っていきます。



【発表会の様子】



【医師等による検証の様子】

◆ 救急隊員症例検討会を開催

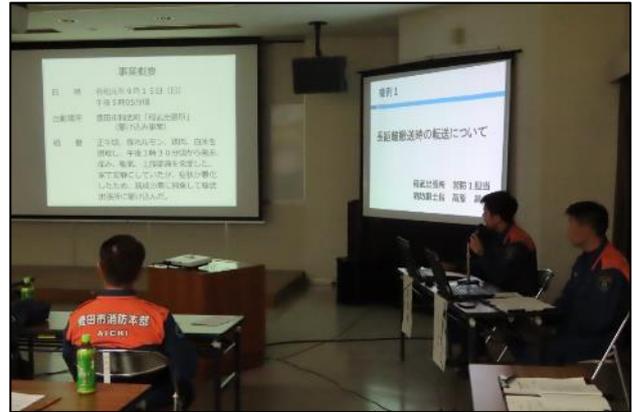
豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部では、令和元年11月20日（水）、豊田市救急業務連絡協議会の事業として、市内の救命救急センター医師及び豊田加茂医師会所属の医師を迎え救急隊員症例検討会を開催しました。

医師10名、消防職員80名が参加した当検討会では、山間地域からの長距離搬送症例、小児のアナフィラキシーショック症例等の4症例と平成30年中の救急事後検証結果を発表し、医師による指導・助言をいただくことで職員の知識向上を図ることができました。

豊田市救急業務連絡協議会は、症例検討会のほか、多数傷病者救急事故対策訓練、ドクターカー研修事業等を連携事業として企画し、救急隊の知識、技術の向上を図るとともに、救急活動における諸課題の改善に取り組んでいます。

今後も、医療機関等との連携を通じ、市民の安全・安心のため救急隊員の知識・技術の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 令和元年度職員研修を実施

大田市消防本部（島根）

大田市消防本部では、令和元年11月19日（火）及び11月20日（水）の2日間、職員研修として島根県県央保健所より保健師の安達愛子様及び佐藤良介様を講師としてお招きし、「ゲートキーパー養成研修」を実施しました。

研修では、自死対策をめぐる主な動き、ゲートキーパーとしての役割について、また悩んでいる人への接し方についてのロールプレイや惨事ストレス対策も含めご講義いただきました。

この研修会を通じて「声掛け」、「傾聴」の重要性を再認識するとともに、メンタルヘルスファーストエイド「こころの応急処置」の考え方による接し方について理解を深めることができました。

今後は、今回の研修で習得した知識を救急活動に生かすことはもとより、同僚のこころの変化等に気づき、必要な支援につなげるより良い職場づくりを目指してまいります。



【研修会の様子】

◆ 消防局内教養研修を開催

相模原市消防局（神奈川）

相模原市消防局では、令和元年11月21日（木）、消防局内教養研修として小隊長及び中隊長を対象に2種の研修を開催しました。前段では相模原市手話指導講師団から「消防手話」について講義があり、また後段では中村・安藤法律事務所の増田弁護士から「消防に係る法律解釈と判例解説」についてご講義いただきました。

講師団からはファーストコンタクト時の名乗り方から、手話が全てではなく、口話や空書などといった簡単に聾者（ろうしゃ）とコミュニケーションをとれる手法などを学び、聾者に安心してもらえる対応が図れるようになりました。

また、増田弁護士からは破壊消防をテーマに、法的根拠のご説明をいただくとともに、関係する判例をご解説いただき、どちらも大変分かり易い内容であったため、法律の難しい部分を理解することができました。消防の実施すべき活動や考え方を改めて見直すことができ、両研修ともに消防活動を実施するうえで大変、有意義な研修でした。



【研修の様子】

その他

◆ 秋季火災予防運動行事の一環として「消防フェア」を開催

小牧市消防本部（愛知）

小牧市消防本部では、令和元年11月16日（土）及び17日（日）の2日間、小牧市市民会館において、市民に対し防火・防災意識の高揚を図るため「消防フェア」を開催しました。

屋外において、放水、救急、救助、濃煙、地震体験やスプレー缶による爆発の実験、住宅用火災警報器設置促進等のブースを計8ヶ所設け、さらに各ブースには消防に関するクイズをパネルで作成しました。

各種体験をスタンプラリー形式で回り、2日間合計で約1,000人の方に体験していただきました。

来場者からは、「子供と火事や地震のことを話すいい機会になった」、「家に帰って住宅用火災警報器の確認をしたい」等の声が聞かれました。



【スプレー缶による爆発実験の様子】



【地震体験の様子】

◆ 消防協力者へ署長感謝状を贈呈～バイスタンダーの協力は命を繋ぐ～

久留米広域消防本部（福岡）

久留米広域消防本部久留米消防署では、令和元年11月19日（火）、久留米消防署管内で発生した救急事案の協力者3名に対し署長感謝状を贈呈しました。



【感謝状贈呈後の全体写真の様子】

3名は歩道上で男性が倒れるのを目撃し、観察を行い心肺停止状態であったため、直ちに胸骨圧迫と通報を行うなど、連携した対応により尊い命を救いました。男性は日常生活に支障のない程度まで回復され、救急隊が到着するまでのバイスタンダーによる救命処置の重要性を再認識いたしました。

◆ 岡山市消防航空隊の360°動画を公開

岡山市消防局（岡山）

岡山市消防航空隊では、令和元年11月20日（水）、航空隊の活動に興味・関心を持ってもらい、消防への理解と防火・防災意識を高めることを目的として、活動風景を360°カメラで撮影した動画を当市公式フェイスブックなどでも公開を始めました。

消防航空隊員の高所での活動を、緊迫感のある動画としておさめ、救助隊員、要救助者及び操縦士のそれぞれの立場が体験できる3本をアップロードしています。

今後も、継続的に広報活動を行い、隊員教育や安全管理用ツールとしても活用してまいります。

- 1 ～救助してみた～（救助隊員体験）

<https://www.youtube.com/watch?v=xec8uBYxEnQ>

- 2 ～救助されてみた～（要救助者体験）

<https://www.youtube.com/watch?v=CavR42dfLgg>

- 3 ～離陸してみた～（操縦士体験）

<https://www.youtube.com/watch?v=IYXrCDWjkNE>



【要救助者体験の様子】



【操縦士体験の様子】

◆ 心肺停止に陥った男性を従業員が協力し救命！～救急功労者に表彰状を贈呈～

柏崎市消防本部（新潟）

柏崎市消防本部では、令和元年11月22日（金）、救急功労者の表彰式を行いました。

令和元年10月10日（木）、柏崎市内のゴルフ場で発生した救急事案において、心肺停止状態に陥った男性に対して、従業員が、迅速な通報、的確な胸骨圧迫、AEDを使用した電気ショックを行いました。この男性は、救急隊到着時には心拍再開し、搬送病院での治療後、後遺症もなく社会復帰されました。

当事業所は、営業開始当初から、緊急時に備え、毎年、応急手当講習会を受講しています。従業員の方々の勇気ある行動と適切な救命処置により、尊い命が救われました。



【表彰状贈呈の様子】

消防学校からの便り

◆ 人事業務管理「教育技法」についての研修会を開催

愛媛県消防学校（愛媛）

愛媛県消防学校では、令和元年11月22日（金）、消防職員初級幹部科訓練生と県内消防本部職員を対象に、総務省消防庁消防大学校客員教授である昭和女子大学大学院心理学専攻教授の山崎洋史氏を講師に迎え、教育技法についての研修会を開催しました。

当研修会では、幹部職員としての部隊づくり及び部下指導のあり方について講義していただきました。また、教育現場の現状及び様々な事例をもとに、リーダーを支えるフォロワーの重要性、部下のリソースを発見し開発する必要性を詳しく解説していただくとともに、ハラスメントが組織に与える影響なども学びました。

研修会参加者からは、「今回の講義内容を持ち帰り、所属での部隊育成に努めたい」などの声があり、大変有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 「平成30年度救急業務のあり方に関する検討会傷病者の意思に沿った救急現場における心肺蘇生の実施に関する検討部会」報告書について（通知）

（消防救第205号、令和元年11月8日）

消防庁救急企画室長から各都道府県消防防災主管部長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

近年、高齢者からの救急要請が増加する中、救急隊が傷病者の家族等から心肺蘇生の中止を求められる事案が生じていることから、「平成30年度救急業務のあり方に関する検討会」において「傷病者の意思に沿った救急現場における心肺蘇生の実施に関する検討部会（以下「検討部会」という。）」を設置の上、消防本部等の取組状況の実態調査、課題の整理及び検討を行い、報告書（別添1）として取りまとめたところです。（別添1省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/191122_kyuuki_01.pdf) に掲載されています。

連絡先 消防庁救急企画室 担 当 小谷専門官、三島補佐、齋藤補佐 TEL 03-5253-7529 FAX 03-5253-7532 E-mail : kyukyukikaku@soumu.go.jp
--

◆ 降積雪期における防災態勢の強化等について

（中防消第12号、令和元年11月26日）

中央防災会議会長（内閣総理大臣）から 関係都道府県防災会議会長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

貴殿におかれては、日頃から各般の施策を通じて災害対策の推進に御尽力をいただいているところであるが、例年、降積雪期においては、依然として毎年災害による犠牲者が発生している状況にある。

近年では、平成18年豪雪において152名に上る多数の死者が発生しており、昨冬期も、12月末の強い冬型の気圧配置による北・東日本日本海側を中心とした暴風雪や大雪などにより、死者40名、重傷者277名等の人的被害が発生するとともに、住家被害や、電力、ガス、水道等ライフラインの被害、交通障害、農林水産業への被害等が発生し、市民生活に影響を及ぼしたところである。

また、豪雪地帯では、高齢化及び過疎化の進展、除雪の担い手となる建設業者等の減少が課題となっていることに注意が必要である。加えて、特に普段雪害が少ない地域においては、平成26年2月の大雪で教訓となった初動体制や除雪体制の整備、住民、ドライバー等への的確な情報提供、要配慮者への対応、孤立のおそれがある地域に対する対策等に十分留意する必要がある。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/chuuboutuuti.pdf>) に掲載されています。

情報提供**◆ 令和2年春の火災予防運動用ポスター等の斡旋について****一般財団法人全国消防協会**

一般財団法人全国消防協会では、防火意識の普及啓発の推進を目的に、毎年、春と秋の火災予防運動の時期に合わせて、全国の消防本部（局）あてに火災予防運動用ポスター等の斡旋を行っております。この度令和2年春の火災予防運動用として、下記のとおりポスター等を斡旋することとなりましたのでお知らせします。

貴消防本部（局）の火災予防運動に是非ご活用ください。

記

1 令和元年度全国統一防火標語
『ひとつずつ いいね！で確認 火の用心』

2 斡旋するポスター等
以下の6種で、いずれもモデルは「青井 乃乃（あおい のの）」さんです。

種 別	ポスター		立看板用ポスター	防火チラシ
	B 2判	B 3判		
記 号	N-1	N-2	N-3	N-4
	S-1	S-2		

3 申込方法
所定の申込書により、FAX または郵送で直接業者にお申し込みください。

4 申込先
有限会社仲田春光堂
〒340-0004 埼玉県草加市弁天4丁目23番14号
TEL 048-932-4085 FAX 048-932-4086



5 申込締切日

	申込締切日	火災予防運動期間
第1次	令和元年12月27日（金） 業者必着	3月1日～3月7日
第2次	令和2年1月17日（金） 業者必着	上記以外の期間 (運動期間の遅い地域)

6 その他

詳細につきましては、令和元年11月29日付全消協第208号にて各消防本部（局）あてに、ポスター等の各見本とともに、案内文書を送付しておりますのでご確認ください。

また、本協会のホームページにも本件の詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

[【https://www.ffaj-shobo.or.jp/shirtsale/buy.html】](https://www.ffaj-shobo.or.jp/shirtsale/buy.html)

【問い合わせ先】

業務課

担当：河野、石井健一

電話：03-3234-1321

◆ 消防職員賠償責任保険について

一般財団法人全国消防協会

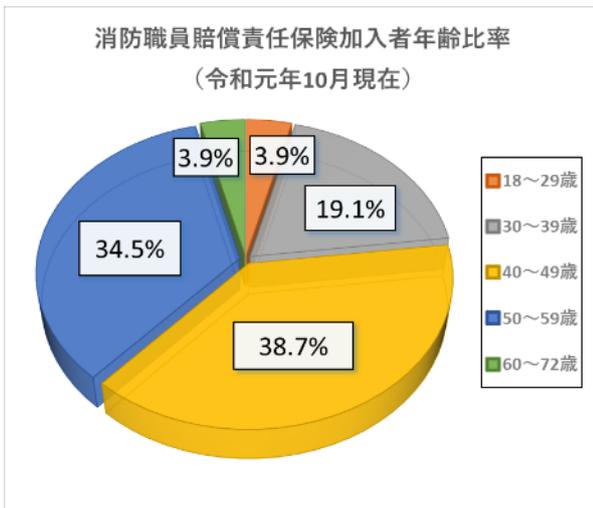
誠実に職務をしていた場合でも、訴えられてしまうことがあります。
そんな時の争訟費用、損害賠償金等を補償する消防職員専用の保険です。

消防職員賠償責任保険は、消防職員が公務員としての職務行為上、他人の生命・身体を害したり、財物を損壊したり、個人情報漏えいによりプライバシーを侵害したこと等に対して、保険期間中に損害賠償請求または不当利得返還請求等がなされたことにより「職員個人」が被る法律上の損害賠償金や争訟費用等に対して損害を補償するものです。



- 特徴1 救急救命士の専門業務も補償対象です！
- 特徴2 弁護士費用等の争訟費用だけでなく、法律上の損害賠償金も補償されます。
- 特徴3 住民訴訟のみならず民事訴訟にも対応しています。
- 特徴4 退職された後の請求にも5年間補償が継続されます。

資料請求等は、担当者までご連絡下さい。



募集期間

★4月1日より1年間加入の場合
申込：2019年12月中旬～2020年2月7日
保険料：3,200円(年間)
※インターネットからの申し込みもできます。



←読取り専用のアプリから
アクセスして下さい。

問合せ先 消防職員賠償責任保険
担当 妻神 小池
電話 0120-065-988
FAX 03-3234-1847

◆ 家庭常備薬等の斡旋について

一般財団法人全国消防協会

一般財団法人全国消防協会の指定店登録事業者である白石薬品株式会社では、本年4月に引き続き家庭常備薬等を斡旋いたします。

1人分からお申し込みが可能で、昨年度は延べ2,097名の消防職員(会員)にご利用いただきました。本斡旋は年2回の実施となっておりますので、健康管理の一助としてぜひこの機会にご活用ください。

なお、商品の詳細や申し込み方法等につきましては、11月のほのお・会報便に資料を同梱しておりますので、多くの皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。

掲載商品(一部)

商品名	斡旋価格	参考価格
パブロンS a錠	790円	1,320円
葛根湯エキス顆粒	580円	1,650円
バンテリンコーワ液EX	1,780円	2,750円

【問い合わせ先】

業務課

担当：河野、石井健一

電話：03-3234-1321

◆ 阪神・淡路大震災から25年 「震災郵便ポスト」

＜当時、被災地で活動された隊員の経験談をお寄せください＞

阪神・淡路大震災から25年の節目の企画として、神戸市消防局は「震災郵便ポスト」を設置しました。

震災当時の思い出・記憶・教訓などを手紙や電子メールで受け付け、震災未経験の方などへお送りする取り組みです。

当時、神戸市は全国から多大な消防応援をいただきました。被災地で活動いただいた消防隊員の皆様から当時の経験談をぜひお寄せください。

(画像は直接投函用に設置した専用ポスト)

神戸市消防局



【企画の詳細】

(1)実施期間(手紙・メールの受付期間)

令和元年11月5日(火曜)～令和2年1月31日(金曜)

(2)参加方法

阪神・淡路大震災での経験談を、2,000文字(原稿用紙で5枚分)以下にして、手紙またはメールで下記のいずれかの方法で事務局へお届けください。内容確認の上個人情報を削除しますが、公表されることを前提に参加してください。

○郵送の場合

《発送先》〒653-0016 神戸市長田区北町3-4-8

長田消防署 震災郵便ポスト担当者あて

○電子メールの場合

《送信アドレス》 sinsai@office.city.kobe.lg.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍・推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報No.0117又は機関誌「ほのお」2019年4号（4/25発刊）を参照願います。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当：企画課 石井

原稿データは、kikachosei@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

・文章は、Wordで150文字程度（160文字以内）で作成をお願いします。

・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：情報管理課 渋谷

原稿データは、joho-sys@fcaj.gr.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

TEL：03-3234-1321 / E-mail：weekly@fcaj.gr.jp

記事の投稿に関する注意点

・配信日（原則火曜日）から2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。

・文章は、Wordで200字～400字程度で作成をお願いします。

・写真は、1枚～2枚をWordに貼り付けて送付してください。

（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）

・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321 「週間情報」担当：企画課 清田